

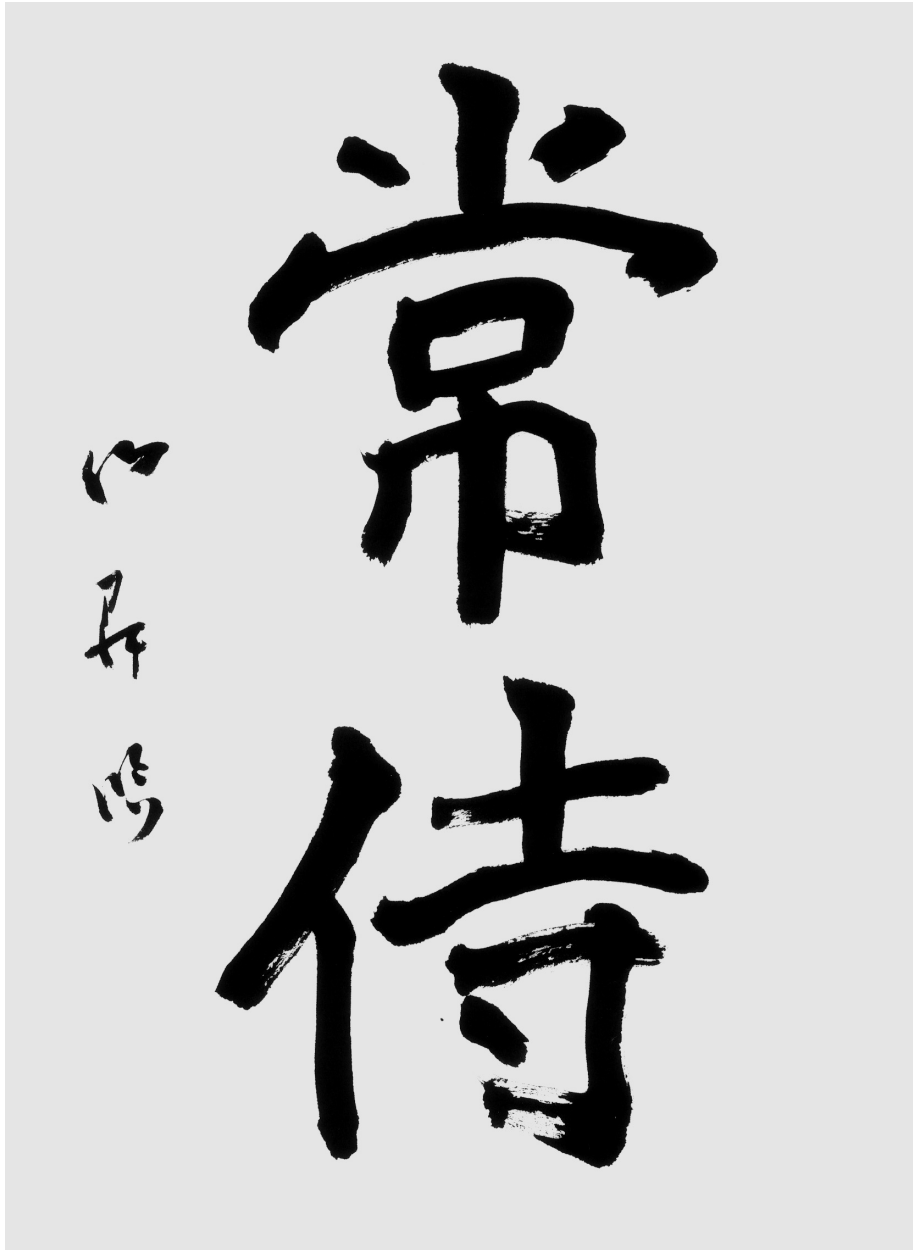
高・大・一般漢字(楷書B)

※楷書A、Bは段級をとわず両方出品も可。

長野 竹軒

鄭道昭〈鄭羲下碑〉②

常侍



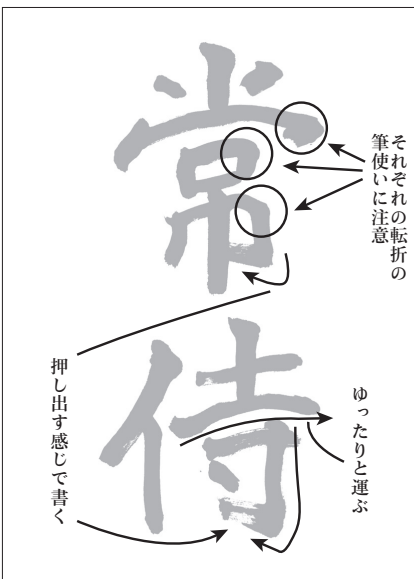
〈解説〉

「鄭羲下碑」は、中国の北魏時代の名族の一人であった鄭道昭の書による、父鄭羲の功徳を称えた内容を記した北魏時代を代表する古典の名作です。雲峰山の中腹にこの碑だけがお堂の中にあり、他の碑は山に登りながら、鄭道昭の書を自然石に直接刻した、いわゆる摩崖碑として見ることが出来ます。中には小さい碑もあり、気をつけて登らないと見過ごすなど、様々な大きさの碑があります。

〈学習上の留意点〉

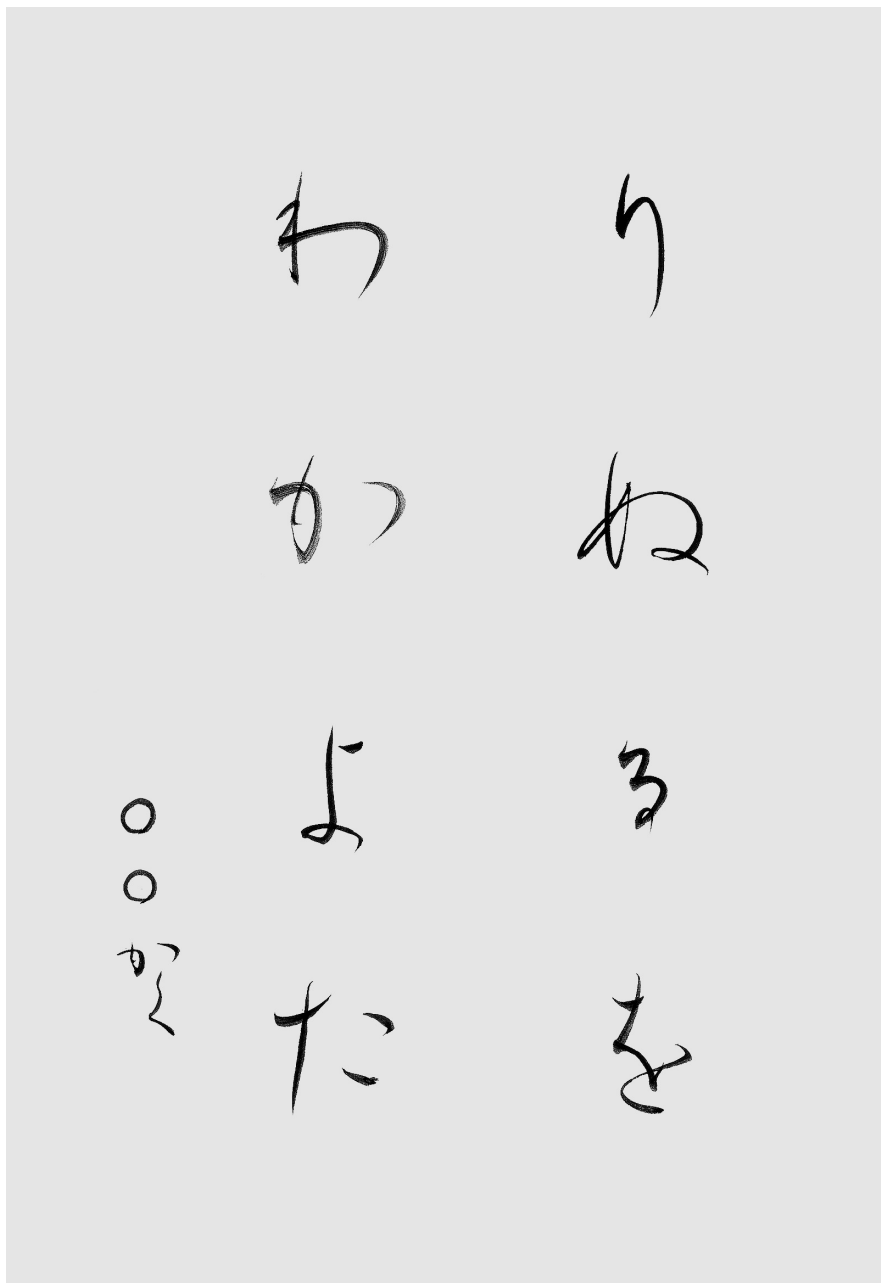
先月号でこの碑の学習目標を二点あげました（「筆を丁寧につくり運ぶ」「起筆は、穂先を包むように藏鋒で表現する」）。二点の用筆法（筆の使い方）を理解していただき、息の長い粘り強い線、呼吸の長い線の学習であることを踏まえて臨書に取り組みましょう。

「常」…三カ所ある転折の用筆に注意する。
「侍」…五画目の横画、七画目の縦画から「ハネ」の筆使いに注意する。



高・大・一般 仮名入門

熊坂 尚史



中心を越えない
外形は三角形
小さく書く
あまり右上がりにしないで直線的に書く
懐を広く空ける
二筆目と離す
二つ目の点は内側に入れる
離れても良い

「り」縦長に書きます。後半部分が少し右側に張り出すようにします。終筆が中心を越えないように書きましょう。

「ぬ」一筆目と二筆目を左に寄せます。結びを平べったく。字母の「奴」を意識しましょう。

「る」小さく書きます。一字で完結させるといふよりも次の字へつなぐイメージで書きます。

「を」三筆目が鍵です。あまり大きくせず、左に出過ぎないように書くことが大事です。終筆部はしんにょう「え」なので、図のように離れても構いません。

「わ」字母の左側が「禾（のぎへん）」の場合、高い位置で折り返します。字母が「和」ですからあまり右上がりに書かないようにして「り」の変体仮名「利」と差別化を図ります。

「か」中を大きく空けます。右側は「折れ」にならないようにゆったり書きましょう。

「よ」はすこし小さめで縦長に書く字です。一筆目の点を二筆目から離して書くと、「き」の変体仮名の「支」と間違えにくくなります。

「た」字母の「太」を意識して四筆目を内側に書きましょう。次の字へ続けやすくなります。

〈用具用材について〉

筆…仮名用の筆（できれば柳葉筆）を四分の一ほど下ろして使いまししょう。

墨…仮名用油煙墨を少量磨って使いまししょう。

紙…提出用紙は半紙 $\frac{1}{2}$ （縦）（およそ縦24cm×横16.5cm）とします（87頁参照）。滲まない半紙かロール紙を二分の一に切って縦長に使いまししょう。

落款は「○○○（下の名前）かく」とします。